患者と医療者の協同によるフルネーム確認

○井出達治郎　渡辺仁　井出縫子　山浦房枝　茂原麗子　佐藤満
清水彩子　上原万典　中村千尋　患者確認ワーキンググループ

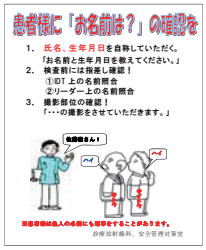
JA長野厚生連佐久総合病院
〒384-0301　長野県佐久市臼田197
Tel: 0267-82-3131

医療安全全国フォーラム
2010年11月26－27日
幕張メッセ　国際会議場

当院における患者誤認防止の取り組みの流れ

当院では、検査部門から、「患者に氏名・生年月日の自称を求める」患者誤認防止の取り組みがスタートした。スタッフへの周知、患者さんへの協力を求めるポスターを掲示して推進してきた。他方、入院された患者さんに対しては、自称が困難な方を想定し、リストバンドによる患者確認を標準手順とした。

→スタッフ向けポスター　二〇〇四年改訂版



←患者向けポスター

目的と方法

当院では、患者確認の標準手順を、外来患者は氏名・生年月日の自称、入院患者はリストバンドによる認証としている。しかし、患者誤認が依然として発生する実態があった。
今回はまず、標準手順の遵守を周知する活動をおこなった。入院患者を対象に、活動前後でのリストバンドの使用実態をアンケート調査し、患者誤認防止のための方策について、あらためて検討を加えた。

取り組み

(1)患者誤認の現状把握
　①インシデントレポートの分析
　②病棟看護師からの聞き取り調査
　③入院患者対象のアンケート実施
(2)リストバンド推進活動の実施
　①リストバンド活用方法のマニュアル作成
　②リストバンド確認啓発のポスター作成・病室に掲示
(3)入院患者対象のアンケート実施（前後での比較）

アンケート

調査対象：
ICUと精神神経科を除く入院患者
調査内容：
①場面別のリストバンド確認の有無
（8場面：採血、点滴・注射、X-P撮影、心電図検査、CT検査、与薬、配膳、診察）
②リストバンドに対する意識・認識

推進活動（ポスター）

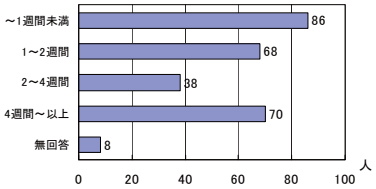
患者と医療者の「協同」を重視

→入院患者向けポスター

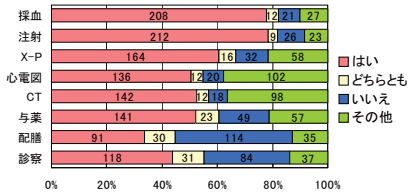
←外来患者向けポスター

活動前のアンケート結果　(n=270)

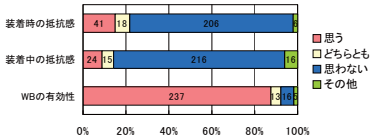
◆調査対象患者入院期間別分布



◆リストバンドでの患者確認



◆リストバンド（WB）についての評価

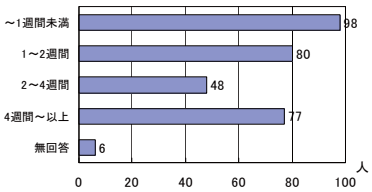


＊装着中の抵抗感・・・顔見知りのスタッフがリストバンドを確認することへの抵抗感

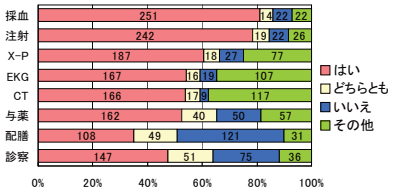
●約87%の入院患者がリストバンドの有効性を認めていた。
●リストバンドに対する評価に、入院期間の長短による明らかな違いは認められなかった。
●リストバンドによる患者確認は患者に評価されており、積極的に活用する必要があると考えた。

活動後のアンケート結果　(n=309)

◆調査対象患者入院期間別分布



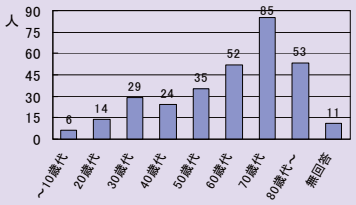
◆リストバンドでの患者確認



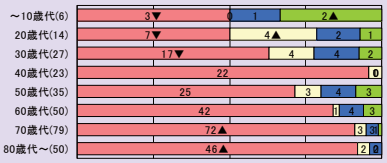
●活動前後で、リストバンドによる患者確認状況に変化は見られなかった。

リストバンドでの患者確認　患者年代別比較

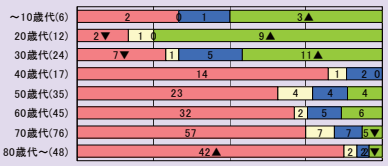
◆調査対象患者年代別分布



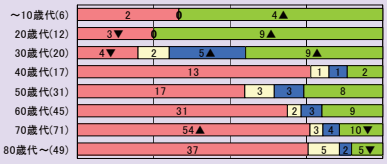
◆注射・点滴施行時



◆X-P撮影時



◆心電図検査時



▲＝有意に大　▼＝有意に小　＊入院中に実施しなかった検査等もあり、回答患者数が異なる。

●若年層でリストバンドによる確認が少なく、高齢者層で多くなる傾向があった。高齢者では自称が困難な方が存在することと、若年者では「氏名・生年月日の自称」による確認が行われているなど、旧来から行われていた方法が用いられている実態がある。

まとめ・考察

リストバンドによる患者確認を推進し、活動前後で実態調査をしたが、活用状況は変化しなかった。但し、アンケートの記述からは、患者に氏名の自称を求める、輸液バッグに貼付されているラベルに印字された患者名を患者に見せて確認いただく、等の患者確認が行われていることも明らかとなった。当院では、今後バーコードによる患者認証システムが導入される見込みである。医療行為実施前にバーコードの読み取りが必須となるシステムの構築により、患者確認手順の標準化が進むと期待されるものの、緊急時には困難であり、また外来患者には適用できない。
患者誤認防止のためには、複数の確認方法の使い分けを進める必要が考えられた。

(c) 佐久総合病院